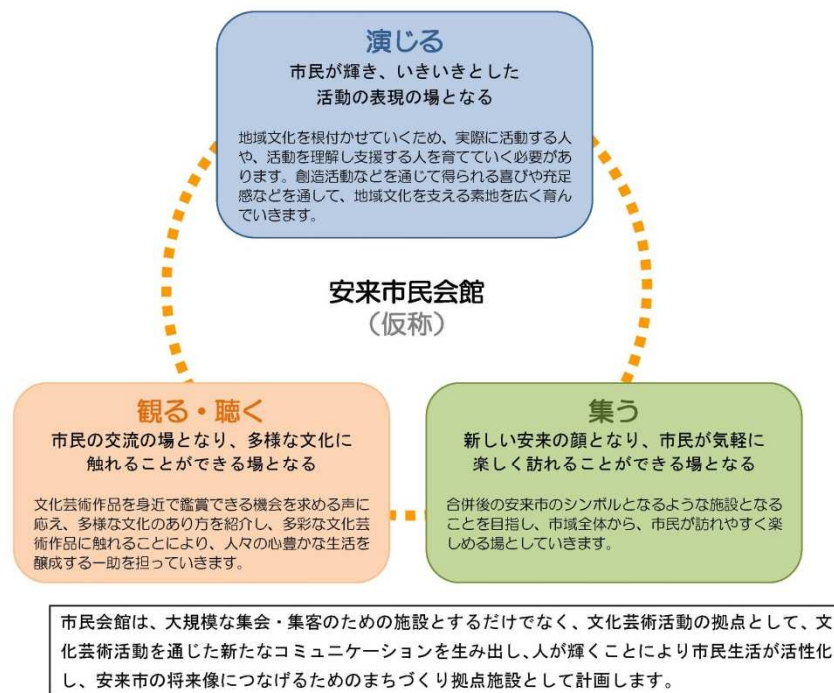


4. 建築意匠設計基本方針

4-1 基本理念

「基本構想」、「基本計画」に基づき、市民会館設計における「基本理念」は以下のとおりとする。



4-2 設計基本目標 (コンセプト)

市民の交流と文化の醸成を未来に繋ぐ市民会館

- ◆ 新たな文化交流施設として、まちの文化軸を形成し沿道のまちづくりと連携しながら、まちの活性化に寄与する文化交流拠点を創出する。
- ◆ 外部からも活動が感じられる用途(機能)配置や、市民活動の利便性を高める細やかな配慮、誰にでもやさしい施設計画により、日常的に市民が気軽に利用できる、まちに開かれた施設とする。
- ◆ 施設デザインは、穏やかな山並みと伯太川・吉田川・飯梨川などの川沿いにできた“まち”を原風景として捉え、川のせせらぎや竹林と、綺麗なシルエットの小山のもとに市民の交流と文化の醸成を未来に繋ぐ形として表現する。

4-3 設計基本方針

1) 市民が演じ・鑑賞し・集い、文化を醸成する市民会館

- ・市民の文化芸術活動・文化を醸成する拠点として、生音を生かした高品質の多機能型の演目に対応した大ホール、平土間利用も考慮した可動客席を備え使いやすく多目的に利用でき、生音にもこだわった小ホールを整備する。
- ・会議室、展示室、練習室などを整備し、多様な文化・芸術活動が行える施設づくりを行う。

2) 市民に開かれた親しみのある市民会館

- ・会議室、展示室、練習室など、市民活動機能をわかりやすくロビー周囲に配置するとともに、外部からも活動の様子が垣間見ることができる空間構成とする。
- ・ロビーに面して市民ラウンジを設けるなど、市民が自由に使えるスペースを設け日常的な利用を促進する。
- ・建物ボリュームの分節化を図り圧迫感を解消するとともに、素材のもつ質感、色彩が感じられる外装材を使用することにより、周辺の風景に調和させ、市民が親しみを持てる外観計画とする。

3) 人と環境にやさしい市民会館

- ・市民、演者職員等、誰もがわかりやすく使いやすい、ひとにやさしい施設づくりを行う。段差解消はもとよりトイレ、サイン、駐車場など、ユニバーサルデザインに配慮する。
- ・節水、節電の工夫や自然エネルギーの活用などにより、環境負荷の低減、CO2排出量の低減し環境にもやさしい施設計画とする。

4) 安全・安心、市民を守る市民会館

- ・構造の耐震安全性はもとより、多数が集う公共空間として大天井の脱着対策など、市民の安全・安心を確保した施設計画とする。
- ・非常用電源の確保、防災倉庫の設置など、災害時にも拠点機能を発揮して、市民の安全・安心を守る施設づくりに配慮する。
- ・救援物資の受け入れ、仕分け、市民への物資配給拠点として、屋内外の一体的利用などに配慮する。また、諸室については災害時の機能転換を考慮した計画とする。

5) 経済性・持続性に配慮した市民会館

- ・華美な装飾等は避け必要な機能は充実させるためにコストバランスのとれた施設計画とする。
- ・耐久性・汎用性のある材料の採用による維持管理の容易性や省エネルギー・環境配慮技術の採用によるエネルギー使用量の削減など、維持管理にかかる手間や費用を削減することでライフサイクルコストを抑えた持続性のある施設計画とする。

6) 地域に根差した市民会館

- ・檜・杉などの地元産材の活用、石州瓦などの地域特有の素材の使用により、地域に根差した親しみのある施設づくりを行う。
- ・豊かな山林の間伐材をバイオマスエネルギーとして空調熱源に積極的に利活用を図り、森林保護や地域振興といった循環型社会の実現を目指す。